

# 市史編さんだより

## 佐伯市史によせて



総監修 豊田寛三氏

ら、今回の「佐伯市史」編さん事業にも大役を仰せつかったのです。

市史編さんも組織が固まり、各部署も発足しました。おかげさまで、最高のメンバー・スタッフが確保でき、各巻の内容の検討も着々と進んでいます。史料や写真の収集、現地調査・取材などには、市民の皆さんのご協力・ご支援が不可欠です。そのため、編さん途中の様々な情報も積極的に市民の皆さんに提供したいと思っています。

例えば、佐伯市(旧町村も含む)との縁は40数年になります。昭和51年の「佐伯藩政史料」の調査以来、様々な勉強をさせていただきました。『佐伯藩史料 温故知新録』の刊行や佐伯城調査にも長い間お手伝いしています。この間、佐伯市・佐伯市民の皆さんから、親しくご交誼に預かり、さまざまな指導や助言・ご世話を頂きました。こうしたことから、執筆者一同全力を傾ける覚悟です。

## 情報提供にご協力ください

市史編さん係では、古い資料などを探しています。引越しや家の整理・片付けの際、古い道具や写真・書類など見つかりましたら、ぜひお知らせください。

また、冠婚葬祭や年中行事などで昔から行われているしきたり、風習についても調べています。現在行われていないことでも結構です。何かご存じでしたら情報提供をお願いします。

皆様方のご協力をお願いいたします。

【問い合わせ・連絡先】Tel 22-4095



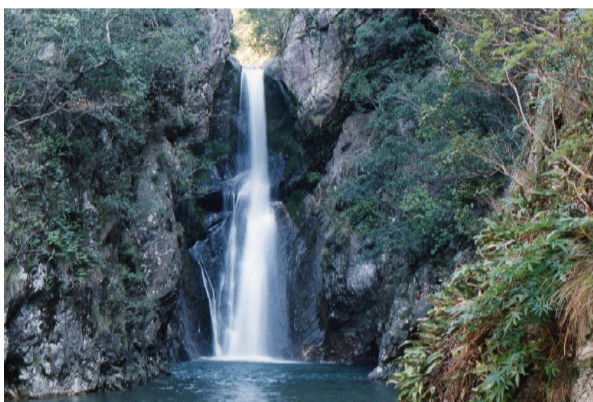
昭和30年代 大手前商店街のようす



昭和10年2月 新築落成記念  
【青山尋常高等小学校3年生】

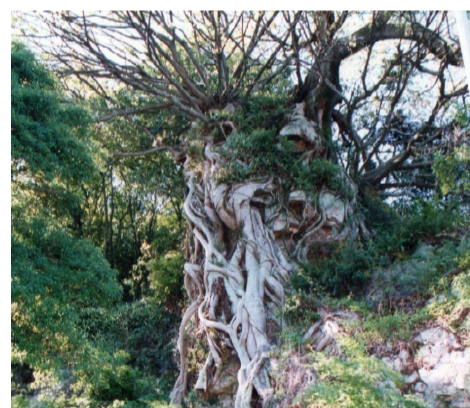
## 市内名勝探訪

名勝「暁嵐(ぎょうらん)の瀧」



佐伯市指定名勝「暁嵐の瀧」

浅海井地区(旧上浦町)の暁嵐公園内に名勝「暁嵐の瀧」があります。「暁嵐」とは、滝のある地名(小字)のことで「ぎょうらん」と読みます。



崖に張りついたアコウ

地区の人は、「ぎょうらん」と濁らずに読むこともあるそうです。

自然が作り出したこの瀧の高さは約20メートル。JR日豊線浅海井駅裏の西北300メートルの位置にあつて、左右のそそり立つ岩壁は、車窓からも間近に見ることが出来ます。豊かな水が勢いよく流れ落ちる様子は壮観で、初日の出で有名な「豊後二見」や「三ツ石」などとともに「暁嵐の瀧」は、大分を代表する景勝地である「大分百景」に選定されています。

## 第2回 佐伯市史編さん市民講座

1月25日(土)、渡町台地区公民館において市史編さん市民講座を開催しました。

当日は、県立高田高等学校校長(佐伯市史編集委員長)の佐藤晃洋氏を講師に迎え「市内に残る史料から幕末の佐伯を読み解く」と題してご講演いただきました。

市内外から62名が参加し、古文書などを講師と解説することで、当時の佐伯の様子を知ることが出来る楽しい講話になりました。

参加者からは、「もつと佐伯の昔の様子を知りたい」「続編をしてほしい」「わずか3行の資料から当時の農民の様子がわかることに驚いた」などのご意見が多数寄せられ、



大分県立高田高等学校 佐藤晃洋氏

学び多き講座となりました。今後も市史に関連する、魅力ある講座を開催いたします。ぜひご参加ください。

また、滝の一滴(境内、神社の周り、険しい崖)には珍しい植物が繁っており、これらは県の天然記念物にも指定されています。

## 具形指定無形民俗文化財 蒲江の神楽

蒲江地区の神楽を紹介します。

蒲江神楽(日向系岩戸神楽)

富尾神社神主・四代塩月重本が享年(1716-1735)に日向国三河内から伝授されたと伝えられています。

神社の4月5日と11月20日の大祭に奉納される日向系岩戸神楽は、地堅(じがため)にはじまり戸取(ととり)に終わる十八番で構成されており、佐伯神楽とほとんど親近関係のない県下では特異な神楽として有名です。(昭和43年指定)

葛原神楽(大野系岩戸神楽)

明治時代の初期、県内清川村の神楽々長和田数馬ほか数名を招き、伝授されたもので、雄々しく荘重な舞



蒲江神楽  
【丸市尾神楽保存会】



葛原神楽  
【葛原岩戸神楽保存会】

いを見ることが出来ます。地区民の正確な技術習得の成果で舞い方の古い姿が受け継がれており、このことが高く評価されています。(昭和56年指定)

寛政7年(1795)の夏には、14歳の若き広瀬淡窓も旧師の松下筑陰と共にこの地を訪れています。